

G 7 仙台科学技術大臣会合のコミュニケの概要

メインテーマ：信頼に基づく、オープンで発展性のある研究エコシステムの実現

第一章 科学研究の自由と包摂性の尊重とオープン・サイエンスの推進

- ・科学的知識、研究データ及び学術出版物を含む公的資金による研究成果の公平な普及による、オープン・サイエンスの拡大のために協力。
- ・公的資金による学術出版物及び科学データへの即時のオープンで公共的なアクセスを支援するとともに、学術出版におけるこれに関連する課題に対処するための科学コミュニティの努力を支持。
- ・科学、政策及び社会の相互作用の質及び影響を改善するための科学コミュニケーションに関するG7ワーキンググループの設置を承認。

第二章 研究セキュリティ・研究インテグリティの取組による信頼ある科学研究の推進

- ・研究セキュリティ・インテグリティの共通の価値及び原則とそれらの普及が重要であることを再確認。
- ・「G7グローバル研究エコシステムのセキュリティ・インテグリティ（SIGRE）ワーキンググループ」がこれまでにまとめた文書や、研究セキュリティ・インテグリティのイニシアティブを世界的に促進することを視野に入れたツールであるバーチャルアカデミーが、開かれた、公正で健全な国際協力を強化し、機微な研究開発を保護するために貢献すると評価。

第三章 地球規模の課題を解決するための科学技術に関する国際協力

- ・科学技術国際協力が、気候変動、持続可能で安定したエネルギー供給、陸上・海洋生態系の破壊と枯渇、感染症その他の疾病、大規模自然災害、食料不安などの地球規模課題に対応するための革新的な解決策を見つける上で、重要な役割を担っていることを確認。

（宇宙関係）

- ・国連宇宙空間平和利用委員会（UN COPUOS）で採択された国際ガイドラインの

実施が喫緊で必要との認識を共有し、デブリ発生抑制とデブリ削減のための解決策の更なる開発の取組を強く奨励。破壊的な直接上昇型ミサイルによる衛星破壊実験を実施しないとのコミットメントを再確認し、他国にも同様のコミットメントをするよう奨励。

（海洋関係）

- ・研究調査船、衛星などによる包括的な海洋観測の実施、改善にコミットするとともに、海洋のデジタルツインを発展させ、観測とモデリングの両方の改善により、付加価値のあるモニタリングと予測の情報を共有することが必要との認識で一致。喫緊の気候問題に対処する上で重要となる極域研究分野における国際協力を支持。

（研究インフラ関係）

- ・最先端研究のビッグデータが世界的にアクセスでき、共有可能なものとする（研究インフラの物理的機能とデジタル的機能の相互接続）によって、新しい研究開発の方法論だけでなく、経済にも影響力のあるイノベーションをもたらすとの認識を G7 として共有。

（国際人材移動・循環関係）

- ・価値観を共有する他のパートナー国とともに、国際協力や共同研究に取り組む研究者、特に若手の研究者を支援。そのための障壁の特定と最小化に協力。